

# 和の光



宝塚市立西谷中学校

## 「教室はまちがうところだ」 蒔田 晋治

教室はまちがうところだ みんなどしどし手を上げて  
まちがった意見を 言おうじゃないか まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない まちがったものを ワラっちゃいけない  
まちがった意見を まちがった答えを ああじゃあないか こうじゃあないかと  
みんなで出しあい 言い合うなかで ほんとのものを見つけていくのだ  
そうしてみんなで 伸びていくのだ

いつも正しくまちがいのない答えをしなくちゃならんと思って  
そういうとこだと思っているから まちがうことがこわくてこわくて  
手も上げないで小さくなって 黙りこくって時間がすぎる  
しかたがないから先生だけが 勝手にしゃべって生徒はうわのそら  
それじゃあちっとも伸びてはいけない

神様でさえまちがう世のなか  
ましてこれから人間になろうとしている僕らがまちがったって  
なにおかしい あたりまえじゃないか

うつむきうつむき そうっと上げた手 はじめて上げた手 先生がさした  
どきりと胸が大きく鳴って どきどきと体が燃えて  
立ったとたんに忘れてしまった なんだかぼそぼそしゃべったけれども  
なにを言ったか ちんぷんかんぷん 私はことりと座ってしまった

体がすうっと涼しくなって ああ言やあよかった こう言やあよかった  
あとでいいこと浮かんでくるのに

それでいいのだ いくどもいくども おんなじことをくりかえすうちに  
それからだんだんどきりがやんで 言いたいことが言えてくるのだ  
はじめからうまいこと言えるはずないんだ はじめから答えが当たるはずないんだ

なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに  
言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだ  
そうしてたまには答えも当たる

まちがいだらけの僕らの教室 おそれちゃいけない ワラっちゃいけない  
安心して手を上げろ 安心してまちがえや まちがったってワラツたり  
ばかにしたりおこったり そんなものはおりゃあせん

まちがったって誰かがよ なおしてくれるし教えてくれる  
困ったときには 先生がない知恵しぼって教えるで そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって あんたちがうと言われたって  
そう思うだからしょうがない  
だれかがかりにもワラツたら まちがうことがなぜわるい  
まちがってることわかればよ 人が言おうが言うまいが おらあ自分であらためる  
わからなければあそのかわり 誰が言おうとこづこうと おらあ根性曲げねえだ

そんな教室作ろうやあ



新しい学年のスタートに際して、皆さんに紹介したい詩があります。それは、左記の『教室はまちがうところだ』です。この詩の作者は蒔田晋治さんという教員(1945年から40年間、公立小中学校に勤務)で、蒔田さんが中学2年生を担任した時に、学級通信で生徒に呼び掛けた詩だそうです。

かなり昔の詩ですが、今読んでも全くその通りだと思わせてくれる詩です。教室って間違っている所ですよ？ 神様だって間違えるのだから、そもそも発展途上の中学生が間違ったって当然のことですよ？ 中学生に限らず、50歳を過ぎた私も、間違っただけです。

今回、この詩を紹介したのは、「間違いを恐れず自分を出していこう、間違ってもいいのだよ」というメッセージを伝えたかったからです。でもそれ以上に、間違いを恐れずに自分を出していくというのは 個人の勇気だけの問題ではありません。学級集団の質が問題になります。お互いの違いを認めあって尊重し合うとか、いろいろな考えを突き合わせて正解を追求する姿勢のある学級集団があって、初めて安心して間違えられる。このクラスだったら間違っただけで誰からも変に思われたい。安心して間違えられる。そんなクラスを築いて欲しい。安心して手が挙げられて、安心して間違えられるクラスを西谷中学校の全クラスで目指して欲しい、と思って紹介しました。